

岩手県感染症週報

令和6年第50週 (12月9日～12月15日)

岩手県感染症情報センター

第50週の概要

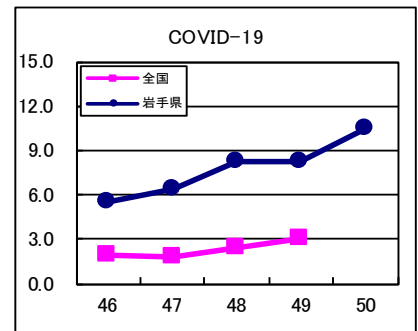
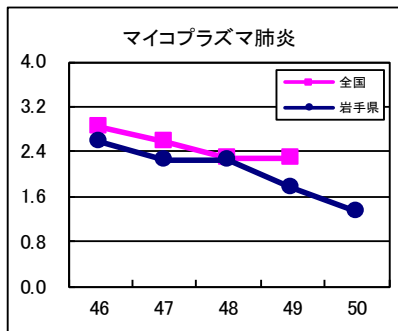
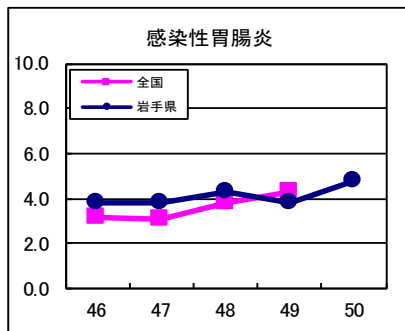
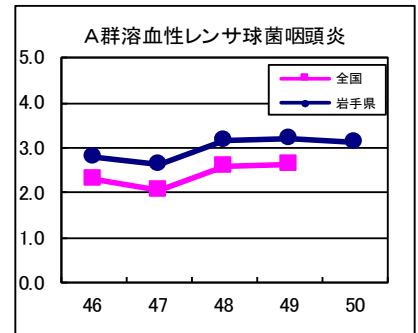
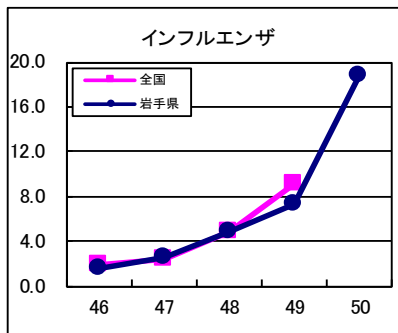
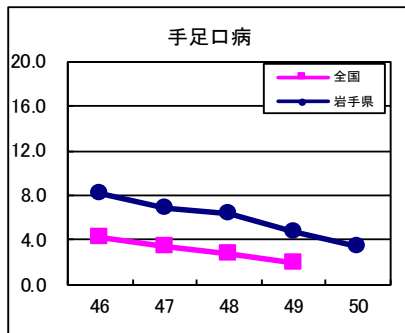
- 1 類感染症
 - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症
 - ・結核の報告が1例ありました。潜在性結核感染症でした。
- 3 類感染症
 - ・腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例ありました。
- 4 類感染症
 - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・水痘(入院例)の報告が1例ありました。
 - ・百日咳の報告が1例ありました。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・インフルエンザは5週連続で増加し、定点当たり患者数は18.70人となり、注意報値である10人を超えました。学校等休業措置が31件ありました。今シーズン、県環境保健研究センターの検査で、A/H1pdm09が検出されています。全国的に増加の傾向にあります。手洗いやうがい等、基本的な感染予防対策のほか、ワクチン接種を受けましょう。症状がある場合は、感染を広げないようにマスクを着用のうえ、早めに受診しましょう。
 - ・新型コロナウイルス感染症は増加し、定点当たり患者数は10.51人となりました。県内のクラスターの発生は12件で、その内訳は高齢者施設5件、医療施設5件、福祉事業所2件でした。高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので注意が必要です。高齢者等を対象としたワクチンの定期接種が実施されています。詳細はお住まいの市町村にご確認ください。咳エチケットや換気等の基本的な予防対策も忘れずに行いましょう。
 - ・感染性胃腸炎は増加し、定点当たり患者数は4.83人となりました。集団発生事例が教育保育施設及び高齢者施設で3件ありました。調理や食事の前、トイレの後は手を洗いましょう。患者の吐物や便は、使い捨て手袋とマスクを着用して塩素系消毒剤で処理してください。その際は換気も忘れずに行いましょう。
 - ・伝染性紅斑(リンゴ病)が増加し、盛岡市と奥州地区で警報値(2人)を超えています。小児を中心に冬から夏にかけて流行する発疹性疾患です。両頬に境界明瞭な紅斑、四肢にはレース状の紅斑が現れます。予防には、手洗いや咳エチケットが有効です。

「岩手県・新型コロナ対策
パーソナルサポート
(@iwatevscovid19)
ID検索またはQRコードか
ら友達追加



最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向
		46	47	48	49	50	
インフルエンザ	岩手県	1.51	2.56	4.78	7.27	18.70	↗☆☆
	全国	1.88	2.36	4.86	9.03		
RSウイルス感染症	岩手県	0.15	0.15	0.23	0.20	0.40	↗☆
	全国	0.26	0.23	0.27	0.31		
咽頭結膜熱	岩手県	0.83	0.65	0.75	0.73	0.65	→☆☆
	全国	0.27	0.28	0.34	0.40		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.78	2.65	3.15	3.20	3.13	→☆
	全国	2.29	2.04	2.58	2.61		
感染性胃腸炎	岩手県	3.85	3.80	4.28	3.80	4.83	↗☆
	全国	3.18	3.08	3.85	4.35		
水痘	岩手県	0.35	0.40	0.45	0.55	0.40	→☆☆
	全国	0.21	0.23	0.28	0.31		
手足口病	岩手県	8.18	6.78	6.43	4.75	3.38	↘☆☆
	全国	4.17	3.37	2.75	1.95		
伝染性紅斑	岩手県	0.28	0.50	0.75	0.73	1.13	↗☆☆
	全国	0.56	0.51	0.89	0.92		
突発性発疹	岩手県	0.28	0.25	0.55	0.30	0.35	→☆
	全国	0.22	0.24	0.28	0.26		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.05	0.00	0.05	0.00	0.03	→
	全国	0.10	0.08	0.06	0.05		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.03	0.05	0.03	0.03	0.00	→
	全国	0.03	0.03	0.03	0.04		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.02	0.02	0.02	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.21	0.07	0.29	0.36	0.29	→☆
	全国	0.49	0.53	0.63	0.71		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	5.57	6.37	8.21	8.21	10.51	↗☆
	全国	1.90	1.81	2.42	3.07		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.03	0.02	0.03	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.04	0.03	0.03	0.04		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	2.58	2.26	2.26	1.74	1.32	↘☆
	全国	2.84	2.57	2.27	2.29		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.00	-	0.01	-		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.00	0.01	0.01	0.01		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	6	9	14	14	13	
	全国	144	225	446	620		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)	岩手県					全国	
		46	47	48	49	50	累計	49	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	2 (1)	4 (2)	6 (3)	3 (2)	1 (1)	130 (60)	241	15018
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	71
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	0	0	2	72	39	3618
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	41
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	6
	E型肝炎	1	0	0	0	0	4	7	489
四類 感染症	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	1	130
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	1	15
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	19
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	4
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	11
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	6
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	4
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	4
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	118
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	2
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	10
	つつが虫病	0	0	0	0	0	4	35	247
	デング熱	0	0	0	0	0	0	3	224
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	3	515
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	9
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	4
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	6
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	45
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	25
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	2
レジオネラ症	0	0	1	0	0	21	30	2295	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	52	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		46	47	48	49	50		49	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	3	4	486
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	2	4	214
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	1	1	1	0	20	48	2148
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	44
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	1	11	523
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	26
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	1	161
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	1	0	0	12	21	1805
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	3	9	933
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	37
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	2	15	592
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	61
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	1	0	9	48	2267
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	1	9	6	454
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	1	0	0	0	0	44	193	13789
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	1	4	182
	破傷風	0	0	0	0	0	1	0	79
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	1	1	116
	百日咳	0	0	0	0	1	11	135	3509
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	6
	麻しん	0	0	0	0	0	0	1	44
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	1	6

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型溶血性レンサ球菌感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌を原因とする5類感染症定点把握対象疾患です。毎年冬から春にかけて患者が増加する傾向があります。飛沫感染や接触感染により伝播し、症状は、発熱、咽頭痛、全身倦怠感のほか、傷口からの感染によるとみられる蜂窩織炎や壊死性筋膜炎、菌血症等を引き起こすこともあります。稀に引き起こされる劇症型溶血性レンサ球菌感染症は重症例であり、A群溶血性レンサ球菌のほかB群、C群、G群の溶血性レンサ球菌も原因となります。5類感染症全数把握対象疾患に分類されており、敗血症性ショック症状のほか、肝不全、腎不全、呼吸不全の一種である急性呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群、軟部組織炎等への劇的な症状の進行を特徴とし、死亡することがあります。

全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、2023年10月以降増加し、過去10年間の同時期と比べ高いレベルで推移しています(図1)。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の2024年の届出報告数は、1999年に統計を取り始めて以降最多となり、高齢者を中心に多くなっているほか、妊産婦での報告もあります。

一方、県内のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、今年の5月以降増加し、過去5年間の同時期(8月まで)と比べ最も多くなっています(図2)。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出報告数は、今週までに12人となり、1999年からの調査開始以降最多となっています。今週の県内保健所管内ごとのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者数は図3のとおりです。

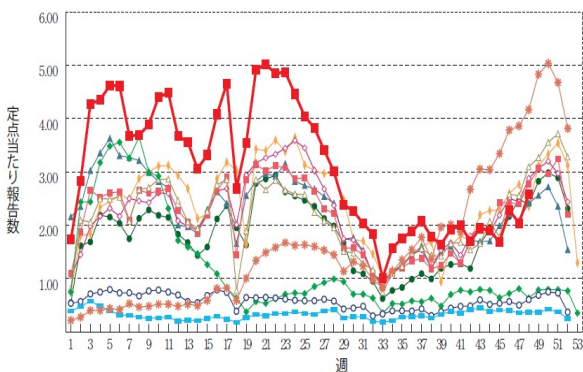


図1 全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2014年～2024年第48週) (国立感染症研究所HPより)

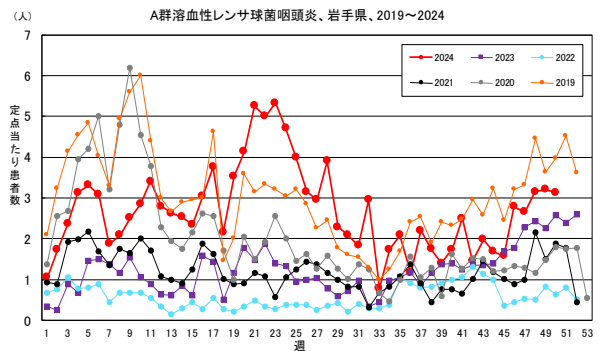


図2 岩手県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2019年～2024年第50週)

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型 溶血性レンサ球菌感染症 (続き)

溶血性レンサ球菌は保菌者の飛沫や接触により感染します。特に家庭内では感染が広がりやすいので気を付けましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防方法等は以下のとおりです。

- (1) 手洗い、うがいの励行。手指をアルコール消毒する。
- (2) 咳エチケット。
- (3) 溶血性レンサ球菌はアルコールや塩素系消毒剤等の消毒薬で死滅するので、ドアノブやおもちゃ等を清掃消毒する。
- (4) タオルの共用は行わない。
- (5) 傷口の清潔保持。症状がある場合には、早めに受診する。

【参考】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pneumococcal-m/group-a-streptococcus-idwrc/12361-idwrc-2343.html>

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html

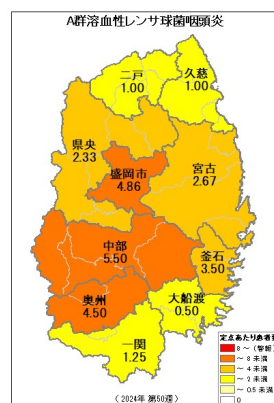


図3 第50週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマを原因とする細菌性呼吸器感染症で、小児を中心に秋から冬にかけて流行することが多い疾患です。潜伏期間は通常2～3週間、感染経路は主に飛沫感染と接触感染であり、濃厚接触の機会が多い学校内や家族内で集団発生が起こることがあります。症状は発熱、頭痛、倦怠感、咳、肺炎、気管支炎を引き起こすほか、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎、脳炎等の合併症を併発することがあります。解熱後も長く咳が続くことがあります。菌の排出は症状出現前2～8日に始まり、臨床症状発現時にピークとなり、4～6週間以上排出が続くようです。

全国の発生状況は図1のとおりです。2024年は春(第21週)頃から増加の傾向にあり2016年以来の大きな発生となっています。マイコプラズマ肺炎は以前より3～7年程度の間隔で流行を起していましたが、2020年以降はCOVID-19の流行に伴い呼吸器感染症への感染対策が推奨されたこともあり、その報告数は国内で減少していました。しかし、COVID-19への感染対策が緩和されて以降、報告数の増加がみられており、今後さらに報告数が増加していく可能性があると考えられています。

一方、県内の発生状況は図2のとおりです。2024年8月(第33週)頃から小児を中心に増加の傾向にあり、2017年以来の大きな発生になっています。

マイコプラズマ肺炎においては、飛沫感染対策、接触感染対策が有効であることから、手洗い、咳エチケットといった一般的な感染対策とともに、患者との長時間の濃厚な接触を避けることが推奨されます。

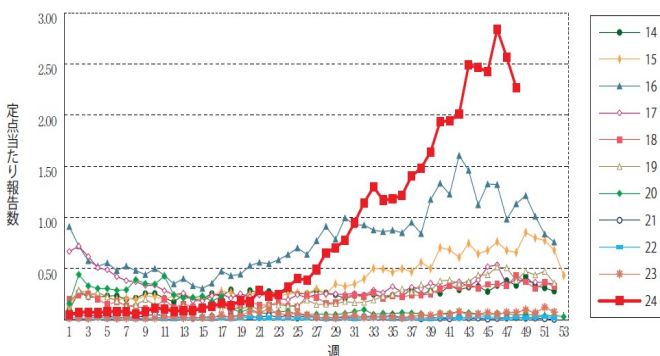


図1 全国のマイコプラズマ肺炎の発生状況
(2014年～2024年第48週) (国立感染症研究所HPより)

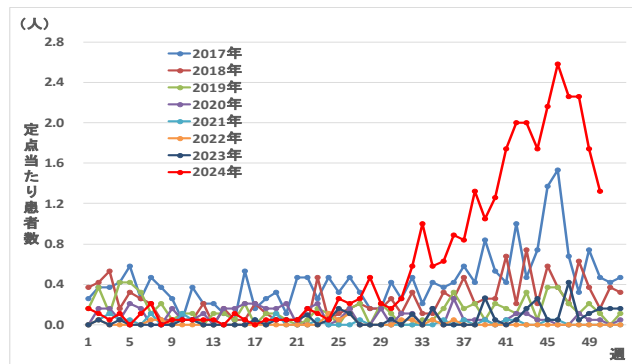


図2 岩手県のマイコプラズマ肺炎の発生状況
(2017年～2024年第50週)

【参考】

マイコプラズマ肺炎の発生状況について (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/mycoplasma-pneumonia-m/2662-cepr/12869-mycoplasma-2409.html>

今注目の感染症

インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする急性の呼吸器感染症で、毎年のように世界で流行がみられます。潜伏期間は1日～3日程で、38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状が突然現れ、鼻水や咳などの呼吸器症状が続きます。

インフルエンザウイルスにはA型、B型、C型の3型がありますが、流行するのはA型とB型です。全国のインフルエンザの発生状況は図1のとおりです。例年11月下旬から12月上旬頃に増加し始め、翌年の1月から2月頃にピークとなり減少していきませんが、昨シーズンは12月上旬にピークが見られました。

岩手県では、例年11月下旬から12月頃に流行入りし、1月から3月頃に患者数が増加します。コロナ禍であった2020/21シーズンの報告数は患者実数（※注）で6人、2021/22シーズンは同9人で、流行開始の目安である定点あたり患者数1.0人を上回ることなく低調でした。2022/23シーズンは、2023年第5週から増加し、第8週にピーク（41.37人）となり、その後減少しました。2023/24シーズンでは例年より早い第40週に流行入りし、第49週でピーク（40.06人）となり減少しますが、2024年第4週から増減を繰り返し、第12週で2回目ピーク（17.87人）となり、2017/18シーズンと同規模の大きな流行となりました。2024/25シーズンは第46週に流行入りしています（図2及び表1）。今週の県内保健所管内ごとの定点あたり患者数は図3のとおりです。

主な感染経路は、咳やくしゃみ、会話などから発生する飛沫による感染（飛沫感染）と、飛沫の付着物に触れた手指などを介した接触感染です。予防には、マスクの着用などの咳エチケットによる飛沫感染対策と、手洗いによる接触感染対策が挙げられ、この他にワクチン接種が効果的です。ワクチンによる予防効果が現れるまでに2週間程度かかるため、早めの接種が勧められます。接種を希望する人は、事前に医療機関にお問い合わせください。

（※注）患者実数とは定点医療機関において報告された患者数

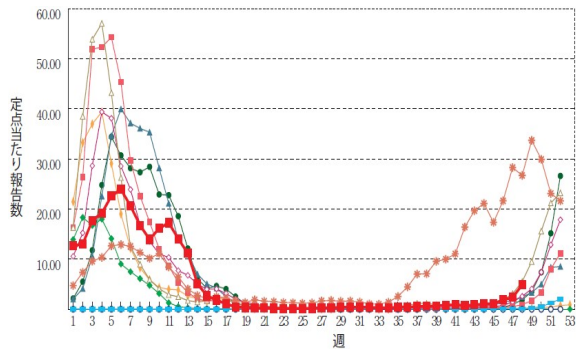


図1 全国のインフルエンザの発生状況（2014年～2024年第48週）
（国立感染症研究所HPより）

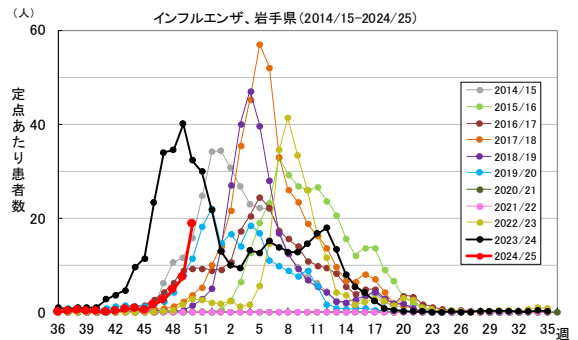


図2 岩手県のインフルエンザの発生状況
（2014年第36週～2024年第50週）

表1 各シーズンの流行入り・注意報・警報を超過した週

シーズン	流行入り	注意報発令	警報発令	ピーク	
	定点あたり患者数 1.0人	定点あたり患者数 10.0人	定点あたり患者数 30.0人	ピーク	定点あたり患者数
2013/2014	48	5	8	11	41.28
2014/2015	47	48	52	1	34.3
2015/2016	1	3	6	6	32.88
2016/2017	45	2	-	5	24.45
2017/2018	48	1	3	5	56.98
2018/2019	50	1	3	4	47.11
2019/2020	42	50	-	52	22.06
2020/2021	-	-	-	-	-
2021/2022	-	-	-	-	-
2022/2023	49	6	7	8	41.37
2023/2024	40	45	47	49	40.06
2024/2025	46	50	-	-	-

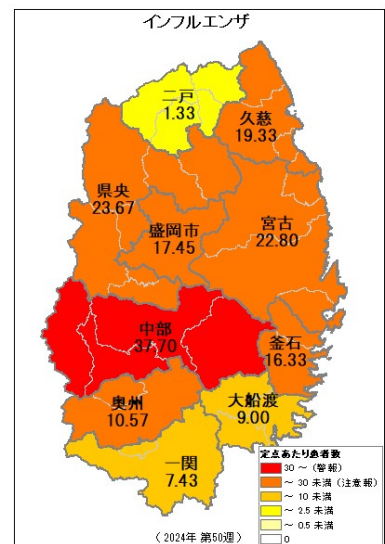


図3 第50週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。

2023年第19週（5月8日～14日）から全数把握対象疾患ではなく、五類感染症の定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

2023年第19週以降の国内と県内の定点当たり患者数は図1のとおり、2024年5月から10月までに県内で検出された新型コロナウイルス変異株の解析結果は図2のとおり、2024年第50週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。国内で流行しているKP.3系統が県内でも確認されています。

高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので特に注意が必要です。予防には、咳エチケットや手洗い、換気等普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

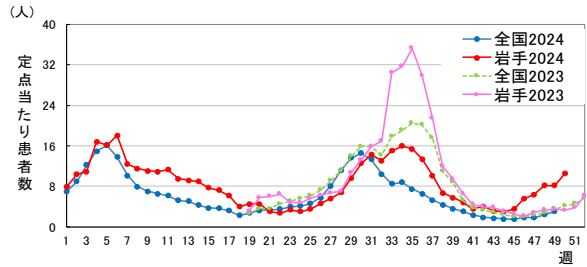


図1 全国及び岩手県の状況(2023年第19週～)

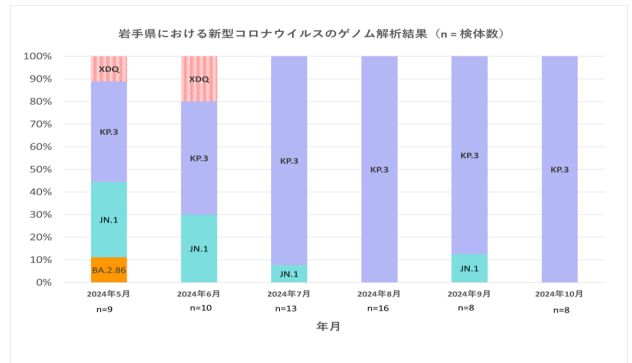


図2 岩手県における新型コロナウイルスゲノム解析結果(2024年5月～10月)



<<岩手県の電話相談窓口>>

県民医療相談センター 受付時間 平日9時から16時
 TEL : 019-629-9620 FAX : 019-626-0837
 いわて発熱等相談センター 受付時間 平日夜間16時から翌朝9時
 及び休日、年末年始
 TEL : 0570-059-333 FAX : 050-3816-3649

「かかりつけ医」がない場合、ご相談ください。

- ① 発熱等の症状がある場合の健康相談や受診先の相談。
- ② ワクチンの効果や体への影響、接種後の副反応についての相談。

岩手県の受診・相談（新型コロナウイルス感染症）のホームページはこちら

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/1052939.html>

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

新型コロナウイルス（2019-nCoV）関連情報について－国立感染症研究所－

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>

岩手県の新型コロナウイルス感染症関連情報

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/index.html>

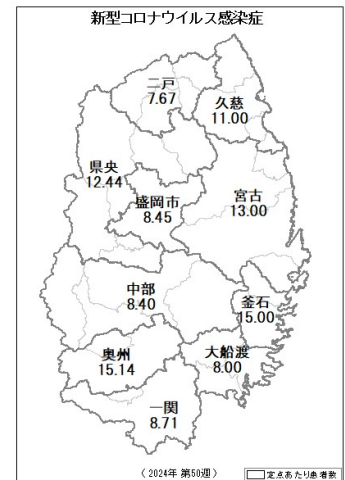


図3 第50週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

集団感染情報

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（令和6年12月9日から12月15日分）

- ・岩手県 26件
- ・盛岡市 5件

詳細は岩手県医療政策室のホームページをご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/kenkou/influ/1060843.html>

○新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について(令和6年12月18日発表分)

- ・岩手県 10件
- ・盛岡市 2件

○感染性胃腸炎の集団発生について

- ・大船渡保健所管内の高齢者施設（利用者47名、職員28名）
12月5日(木)から12月10日(火)にかけて、入所者12名、職員4名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者4名からノロウイルスを検出
- ・県央保健所管内の教育保育施設（園児136名、職員36名）
11月20日(水)から12月10日(火)にかけて、園児21名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者3名からアデノウイルスを検出
- ・中部保健所管内の教育保育施設（園児145名、職員39名）
12月4日(水)から12月12日(木)にかけて、園児25名、職員6名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者3名からサポウイルスを検出



病原体検出情報

- ・新型コロナウイルス感染症患者の咽頭ぬぐい液から新型コロナウイルスを1件検出しました。

医療機関からの情報

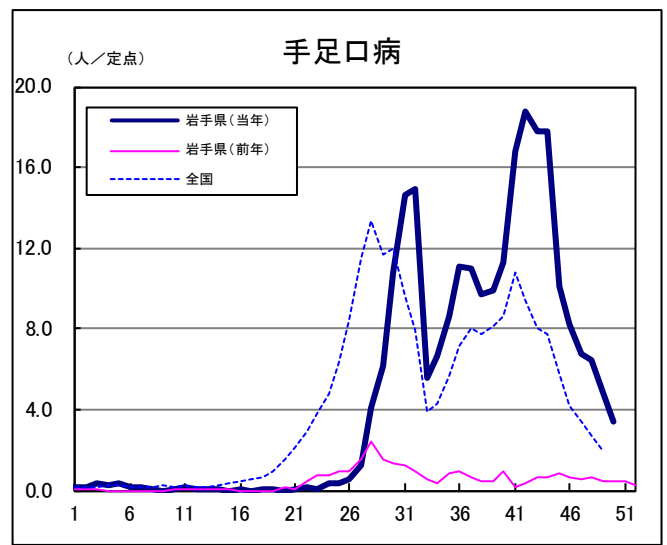
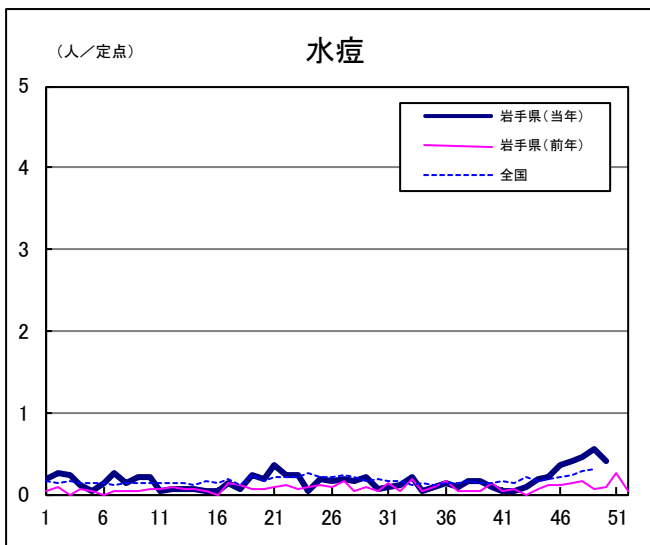
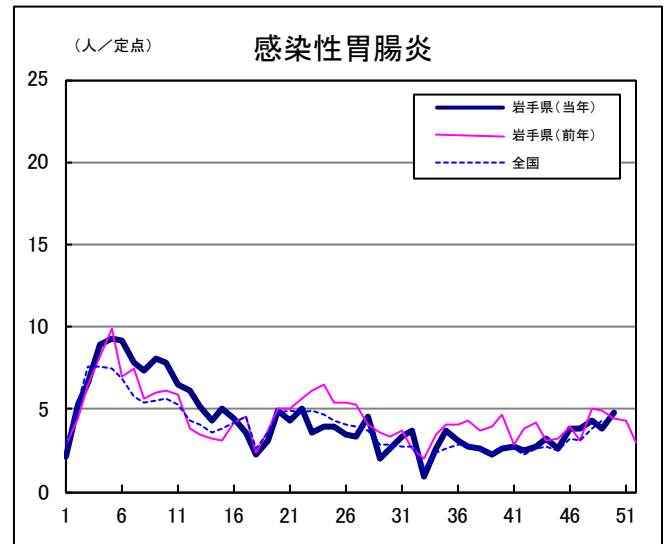
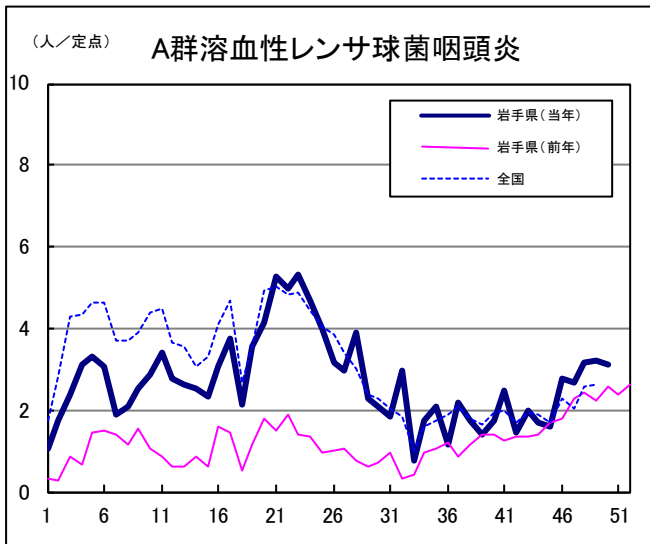
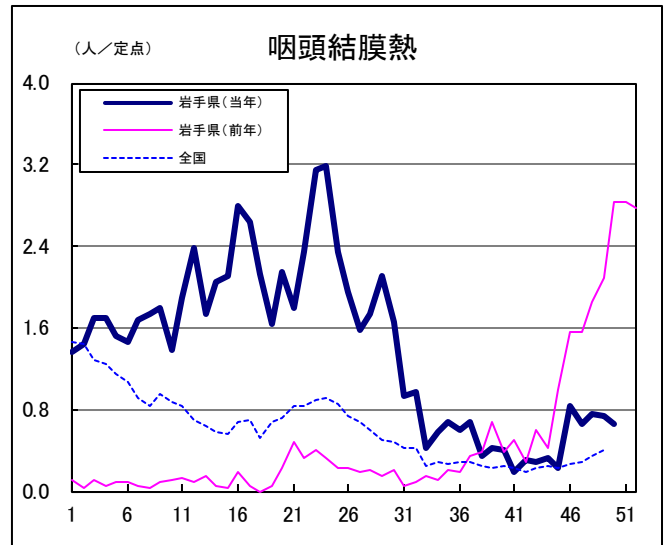
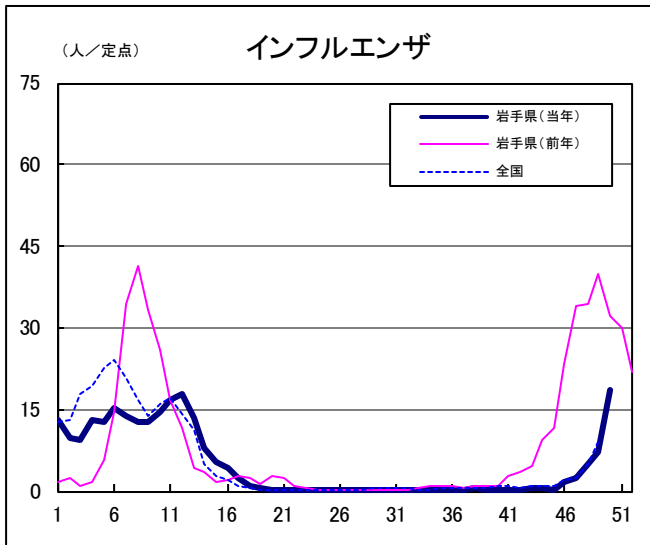
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

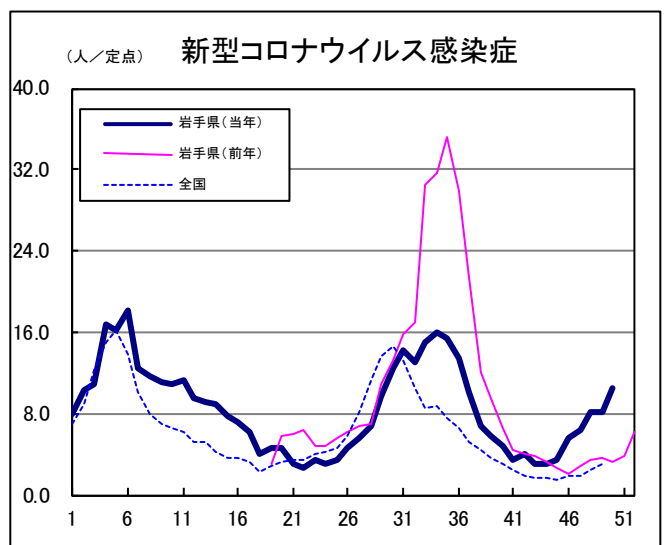
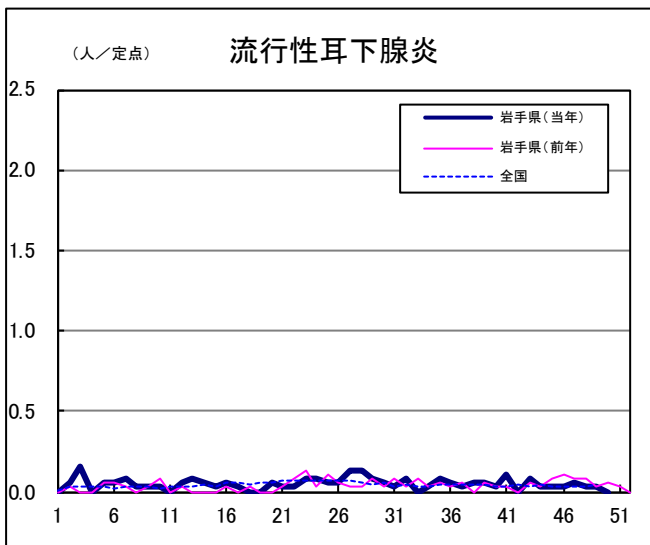
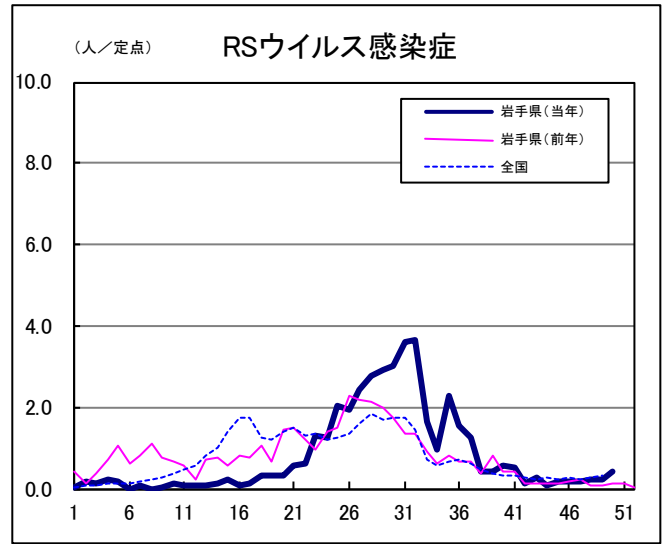
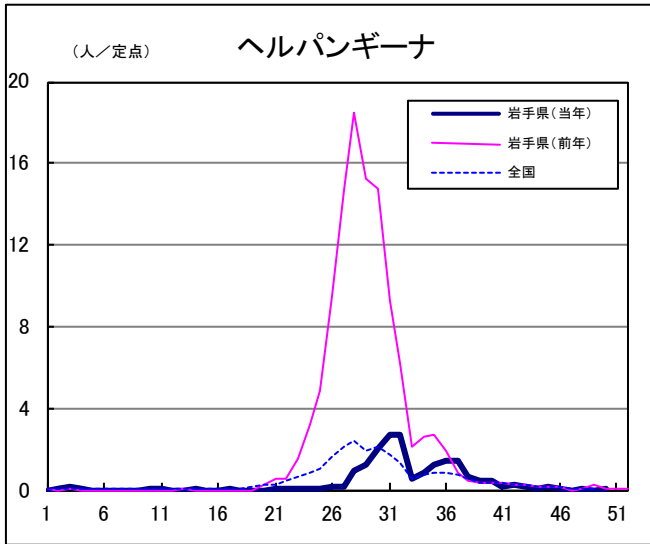
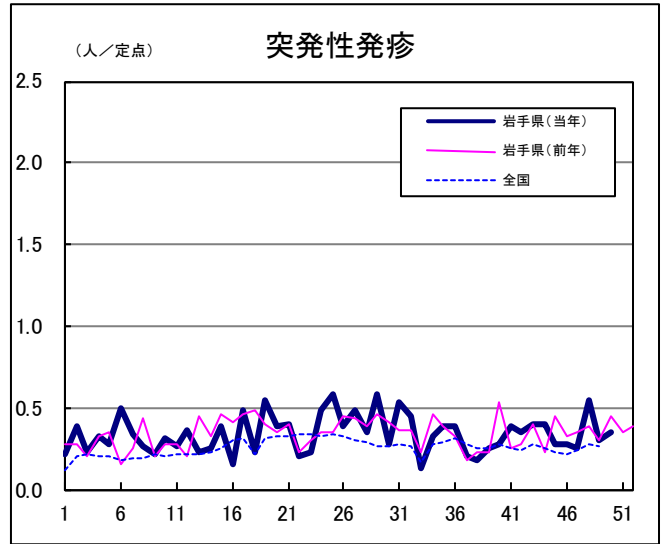
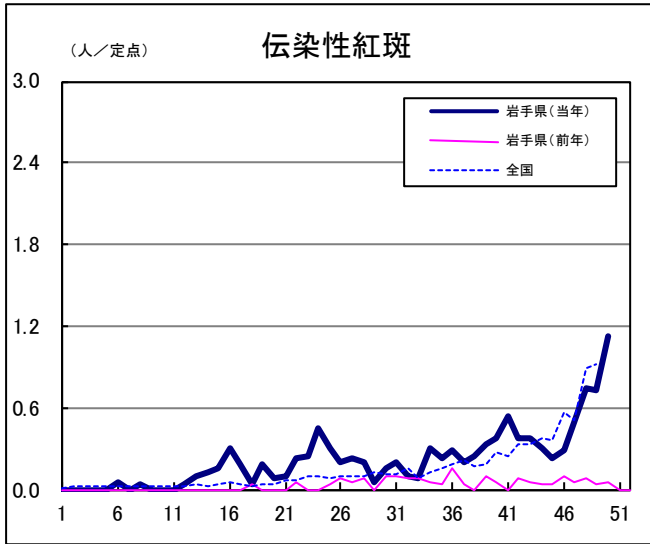
Q & A

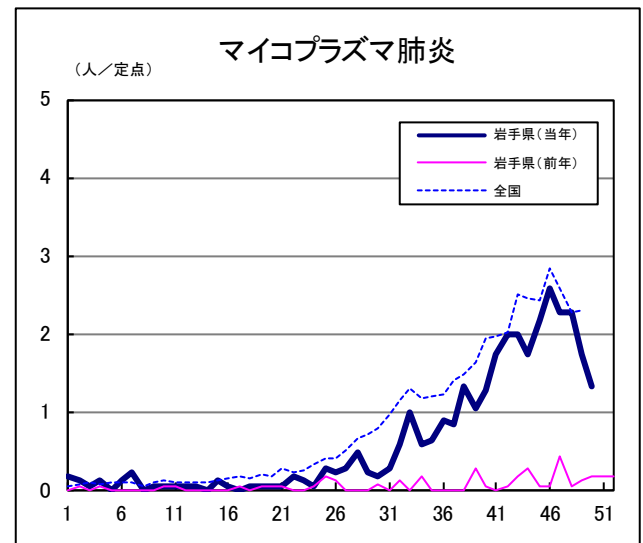
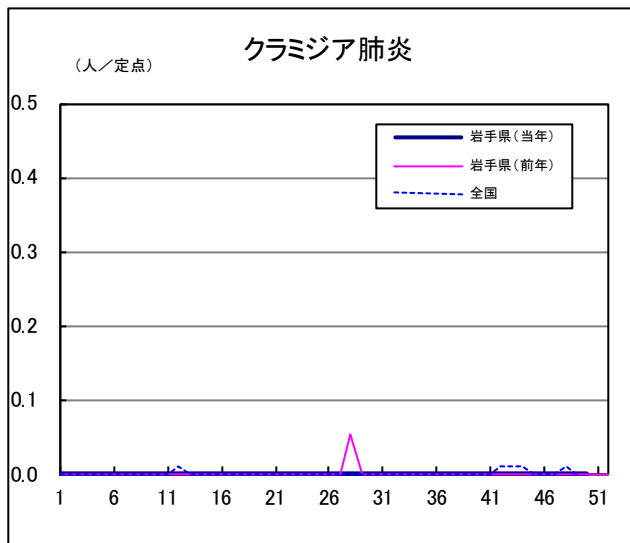
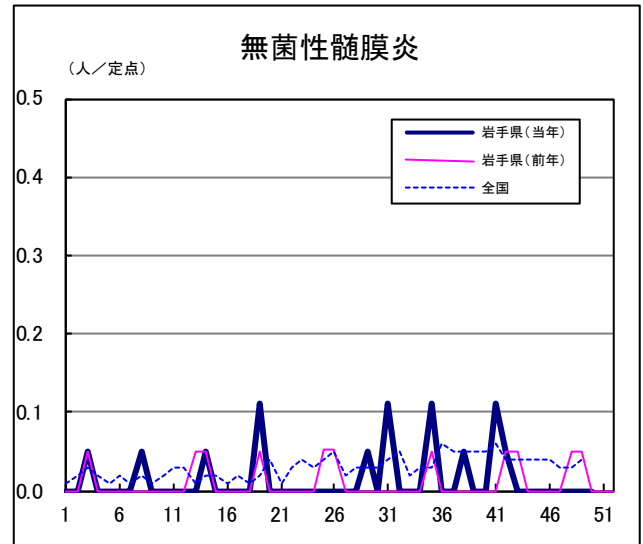
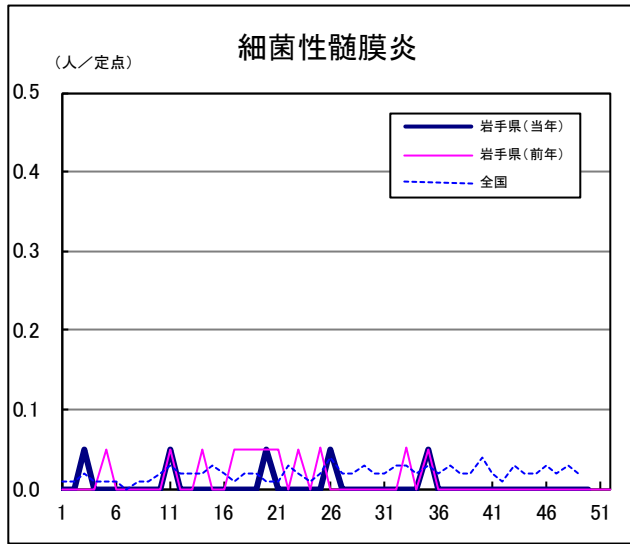
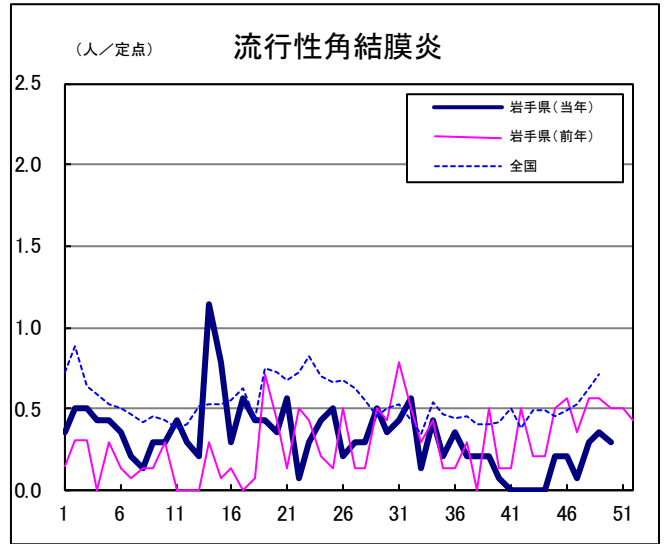
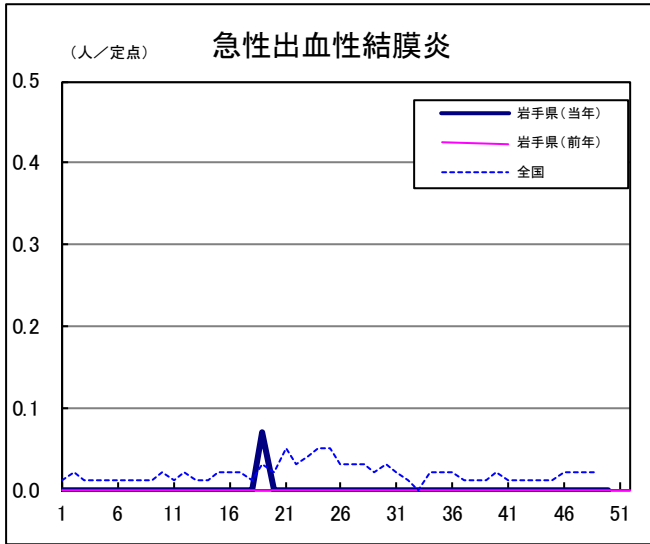
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ /COVID-19	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	63	40	14	19
盛岡市	11	7	3	4
県央	9	6	2	1
中部	10	6	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和6年第50週 令和6年12月20日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター

(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>